

広報

2020

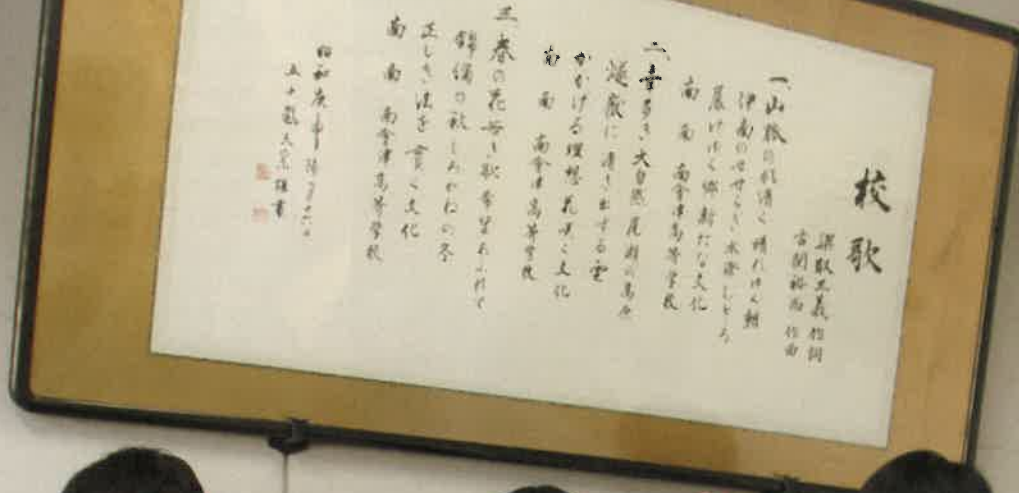


みなみあいづ

7

Public relations of Minami-aizu

No.172



県立南会津高等学校の
校歌をご存じですか？



晩年の古関裕而氏
(福島市 古関裕而記念館より提供)

PROFILE

- 明治42年 福島市大町に生まれる
- 昭和 2年 作曲にあたりペンネームを「裕而」とつける
- 昭和 4年 舞踊組曲「竹取物語」などをロンドンの作曲コンクールに応募し、入選
- 昭和 5年 日本コロムビア(株)に作曲家として入社
- 昭和 6年 早大応援歌「紺碧の空」や「福島行進曲」を作曲
- 昭和11年以降 「大阪タイガースの歌(六甲おろし)」
「露営の歌」「暁に祈る」などを作曲
- 昭和22年以降 菊田一夫とのコンビでラジオドラマの主題歌を次々に作曲
- 昭和 23年 全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」を作曲
- 昭和 31年 福島県立南会西部高等学校(現南会津高等学校)の校歌を作曲
- 昭和 39年 東京オリンピック行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲
- 昭和44年 紫綬褒章受章
- 昭和47年 札幌冬季オリンピックに合わせ「純白の大地」を作曲
- 昭和61年 作曲家生活から引退
- 平成元年 生涯を閉じる



南郷地域に息づく 古関裕而のメロディー

「古関裕而」は、東京での音楽活動のほかに、福島県のみならず、全国各地の校歌や応援歌を作曲し、多くの感動を与えてきました。手がけた校歌や応援歌は全国で300を超え、県内でも100を超える曲が生み出されました。

そのうちの一曲が、福島県立南会西部高等学校(現南会津高等学校)の校歌です。ご存じない方も意外と多いのではないのでしょうか。
次ページから、校歌の生い立ちなどについてご紹介します。

NHKで毎朝放送されている連続テレビ小説「エール」をご存じですか。
時は日本が生糸の輸出量世界一となった明治42年までさかのぼります。舞台は、福島のお宿呉服店。急速に進む近代化の波に大慌てで対応する古山家に、主人公の「裕一」は誕生します。少々ぼんやりしていて、周りから取り柄がない子どもだと思われていた「裕一」。気弱でいじめに合う少年時代を過ごしますが、音楽に出会った瞬間に彼の人生は一変します。
音楽に触れる喜びに目覚め、独学で作曲に取り組む「裕一」

連続テレビ小説「エール」に原作本はなく、完全なオリジナル作品です。ただし、主人公の「古山裕一」には、モデルとなった人物がいます。それは、福島県が生んだ名作曲家「古関裕而(本名古関勇治)」氏です。「古関裕而」は、明治42年に福島市大町に生まれ、昭和5年9月に日本コロムビア(株)に作曲

朝の連続テレビ小説を
ご覧になっていますか？

「古山裕一」のモデルって
誰なんだろう？

は、年齢を重ねるごとに秘めた才能を開花させていきます。音楽の道を一度あきらめかけますが、妻「音」の支えにより不遇の時代を乗り越え、数多くのヒット曲を生み出していく物語です。

目次 Contents

2020年7月号

- 02 県立南会津高等学校の校歌をご存じですか？
- 06 やっぱり寒い！南会津町4蔵元の地酒
- 08 日本酒の消費拡大に向け動く
- 09 栄えある受賞 / 百歳賀寿
- 10 災害への備えにご協力ください
- 12 国民健康保険に関する大切なお知らせ
- 14 各種医療制度に関する大切なお知らせ
- 16 農業委員会だより
- 18 役場からのお知らせ
「福島議定書」への参加事業所を募集します/正しいごみの分別と出し方/太陽光発電システム導入を支援/若者の地元就職をバックアップ/介護予防ボランティア教室に参加しませんか/奥会津博物館を無料で開放します/町のがんばる企業紹介シリーズ28「(株)一十八日南会津オフィス」/ふるさと納税(応援寄附金)
- 23 すまいるだより vol27
- 24 まちの話
町教育委員会委員を再任 / 総合学習の時間に「きのこ」栽培 / 湿原保護の取り組みに尽力 / 田島婦人消防隊が解散 / 日頃の感謝を込めて地域貢献 / 泥だらけになりながら田植えに挑戦！
- 25 7月の納税こよみ
- 26 暮らしの情報
お知らせ・募集(4件)、相談(1件)
- 27 大宅町長の公務百景
- 28 健康通信
虫歯ゼロのお友だち / 乳幼児健診・相談カレンダー / 心の健康相談 / 7・8月の日曜当番医
- 30 図書館へ行こう！
- 31 まちの文芸 / 誕生おめでとう / お悔やみ申し上げます / まちの人口 / 編集後記
- 32 緊急経済対策応援給付金申請はお済みですか？

今月の表紙

県立南会津高等学校の校歌は
古関裕而氏が作曲されました
生徒の皆さんは歴史ある校歌に
どんな思いを抱いているのでしょうか



～当時をプレイバック～



校歌が制定された昭和31年当時の
県立南会西部高等学校



昭和31年当時の生徒たち



校歌

古関裕而 作曲



校歌

が歌い継がれて

63年

校歌

梁取三義 作詞

- 一、山脈の肌清く 晴れゆく朝
伊南のせせらぎ 水澄むところ
展けゆく郷 新たな文化
南 南 南会津高等学校
- 二、幸多き大自然 尾瀬の高原
燦爛に湧き出する雲
かかげる理想 花咲く文化
南 南 南会津高等学校
- 三、春の花若き歌 希望あふれて
錦繡の秋 しらがねの冬
正しき法を貫く文化
南 南 南会津高等学校

インタビュー「校歌への思い」

私も今話題の「エール」を楽しみに見ております。本校校歌の作曲をしていただいたということで、新鮮な気持ちで校歌を口ずさんでいますが、出だしは穏やかで、次第に盛り上がり、サビの部分ではとても高揚した気持ちになります。素晴らしい曲です。本校同窓生6500人の誇りです。古関裕而先生に心より感謝したいと思います。

古関先生が作曲された経緯は、作詞を担当した梁取三義氏からの紹介であったそうですが、その梁取氏は、南会津を舞台にした「伊南川のほとり」という小説を残しています。本校の図書館にも置かれています。昭和初期の南会津の若者の愛と友情を描いたほっこりする青春小説です。こちらの作品も読んでいただければ、本校校歌の味わいもまたひとつ深まるのではないかと思います。ぜひ一読ください。

県立南会津高等学校 校長

橋本 忠広 さん



県立南会津高等学校 生徒会長

桑田 真帆 さん



私が校歌で一番好きな歌詞は、高い目標を掲げて勉学に励み、努力を果らせる生徒の姿を、東北一の高さを誇る燧ヶ岳よりも高い雲に喩えた、二番の「燦爛に湧き出する雲 かかげる理想 花咲く文化」です。

特に終業式での校歌斉唱は、歌詞のような生徒に近づくことができました。学期を振り返りながら、明るく伸びやかなメロディーに乗せて歌えるので、私にとって密かな楽しみでもあります。

また、本校の校歌は、二番の後に間奏が入るので、古関裕而さんの曲の特徴でもある上品さが感じられることも魅力の一つです。

私たちと同じ福島県出身の古関裕而さんが、生涯で作曲した5000曲の一つであることを誇りに、次の世代へつなげていきたいです。

校歌の生い立ち

学制改革による 高等学校の開設

終戦間もない昭和22年3月に学制改革による教育課程の大規模な変更が行われました。いわゆる6・3・3・4制への変更であり、小学校6年・中学校3年の義務教育に加え、高等学校3年と大学4年の高等教育の場が設けられました。

県立南会津高等学校の前身である県立南会西部高等学校が開設したのは、昭和23年7月31日。会津若松まで出なければ高等学校へ入学できない時代から解放され、子を持つ家庭にとつては計り知れない喜びであったようです。

順風満帆には程遠く 苦しい学校運営

開設当初は教員の採用や教員・教材の整備も不十分で、「無からのスタートであった」と、初代校長の玉川春雄氏は文章に記されています。

学制改革に伴い、全国各地で高等学校が開設されたため、十分な予算は割り当てられず、当時は苦しい学校運営

が続いていました。当然のことながら、校歌制定に割くお金もなく、学校開設からの約8年間は校歌が制定されませんでした。

人のつながりにより 生み出された校歌

旧南郷村農業協同組合長を務めた齋藤賢氏の回想記によれば、「作家の梁取三義氏（現只見町布沢出身）に校歌の実情を相談したところ、校歌の作詞を快く引き受けてくれた経緯があり、作曲は友人の古関裕而氏とまで約束してくれた」との内容が記されています。

本来であれば、作詞料・作曲料は高額になるはずですが、梁取・古関両氏が安価な金額で請け負ってくれたことも回想記には併記され、後に当時の生徒たちが山菜取りで稼いだお金と、PTAからの寄付金を合わせた金額を、お二人に届けたというエピソードが残っています。

相談から約1年後の昭和31年12月に県立南会西部高等学校の校歌は制定されました。昭和35年4月に県立南会津高等学校への改称を経て、現在の校歌に至っています。

県立南会津高等学校のホームページから校歌を試聴することができます。ぜひ試聴してみたいかがですか。